

角 田

三 百 苧 さんびやくがり

家 ノ 前 いえのまえ

台 川 原 だいかわら

村 中 むらなか

1028〜1143番地まで、村の中ほど常福院を中心にしての周囲の地。



香村の絵馬

大 久 根 おおくね

1144〜1283番地まで、長峯利夫氏裏の辺。

油 田 (現 油田) あぶらた

昔鷺林集落の人達二・三名の人が住んで居た土地を油田と名付けて以来現在まで続く。

向 油 田 (現 油田) むかいあぶらた

赤沢川に堰を作るためにその付近一帯を油田として、現在も名が残されている。

樋 崎 (現 油田) といとさき

油田地区に堰を造り、佐賀瀬川・赤沢川・鶴沼川の合流地点の手前堀より「地極樋」を造って水を流す辺りの地名。

◆油田 (あぶらた)

昔は「あばら」までぬかる田であったので「あばら田」と呼ばれていたのが鈍って、何時からか「あぶらた」(油田)と呼ばれるようになり、地名となった。

村 西 むらにし

江戸時代初期北向の西方、新屋敷の東方にあたる。明治・大正八年耕地整理後現在に至る。

宮 前 みやまえ

油田堰より流れる水を樋崎を通り、神社の南鶴沼川堤防迄の